

福島ダイアログ

ICRPの視点 2011-2023

はじめに

- 以下のプレゼンテーションは、2011年から2023年にかけて福島県で行われた25回のダイアログミーティングの要約である
- この革新的なアプローチの概要を示し、その記憶を保持することを目的としている。
- プレゼンテーションは、ダイアログミーティングと並行して行われ、ICRPが大きな関心を持って追跡した末続地区のco-expertise経験もまとめて取り扱っている。
- 実際に、末続地区の経験は福島ダイアログに大きく触発され、原子力事故によって影響を受けた人々が自らを守り、行動の自主性を取り戻すことを助けるために委員会が推奨するco-expertiseプロセスの一例である。
- 詳細に興味のある読者は、NPO法人福島ダイアログのWebサイトで全てのダイアログミーティングを視聴できる（ただし、最初の3回の会議を除く）。
- 末続の経験については、2018年のビデオプロジェクトと2022年11月に出版されたアトラスを参照できる。これらはその進行を辿ったものである。

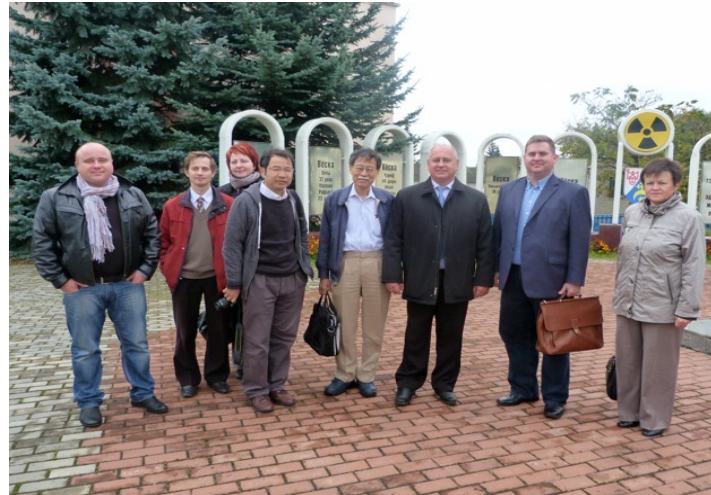
ICRPの福島へのかかわり

- 2011年3月21日、ICRP主委員会の委員長は、日本の人々にシンパシーを表するレターをICRPのWebサイトに掲載した
- 2週間後、ICRP出版物111がオープンアクセスのICRP Webサイトに掲載され
- 2011年4月中旬、ソウル・韓国で開催されたICRP主委員会の春の会議の機会に、福島に関する特別セッションが開催された。
- 2011年9月、ICRPメンバーの代表団は、「国際専門家会議 in 福島：放射線と健康リスク」に参加するため福島医科大学を訪れた
- この機会に、代表団は福島第一原子力発電所を訪れた。

ダイアログの誕生

- 2011年9月14日、東京でのICRP主委員会メンバーとNPO放射線安全フォーラム（日本）の代表との会議：
 - 伊達市におけるNPOによる初期の除染作業と、地元のステークホルダーの関与の紹介
 - 関係する全ての当事者：当局、専門家、地元コミュニティの専門職、影響を受けた居住者間の協力確立の難しさについての議論
- 2011年9月29日から10月4日までのICRPのベラルーシへのミッション
 - ミンスクの国家当局と専門家との会議、およびチェルノブイリ事故の影響を大きく受けたブラギン地区の地元の専門家、専門職、居住者との会議
 - ETHOSプロジェクトおよびCOREプログラムで汚染地域の生活環境を再建するためのステークホルダーの関与の重要性について、日本のメンバーが認識
- このミッションに続いて、影響を受けた領域の生活条件の長期的なリハビリテーションの課題について議論するために、全ての関心ある当事者に福島でのダイアログミーティングを提案することを決定

ICRPのベラルーシ訪問 Sept.- Oct. 2011 (1)



ICRPのベラルーシ訪問 Sept.- Oct. 2011 (2)



ICRPのベラルーシ訪問 Sept.- Oct. 2011 (3)



最初のダイアログミーティング

- 2011年11月26日と27日に福島県庁会議室で開催されたトピックは「福島事故後の生活条件のリハビリテーション：チェルノブイリからの教訓とICRPの推奨」
- ICRP、NPO放射線安全フォーラム（日本）、福島県、福島医科大学の協力により開催
- フランス放射線防護・原子力安全研究所（IRSN）、ノルウェー放射線保護局（NRPA）、フランス原子力安全局（ASN）の参加と支援
- 参加者による、影響を受けた地域住民の生活条件を改善するためのダイアログの継続を呼びかける宣言の採択

最初のダイアログミーティング



最初のダイアログミーティングシリーズ

ICRP福島ダイアログイニシアティブ (2012-2015)

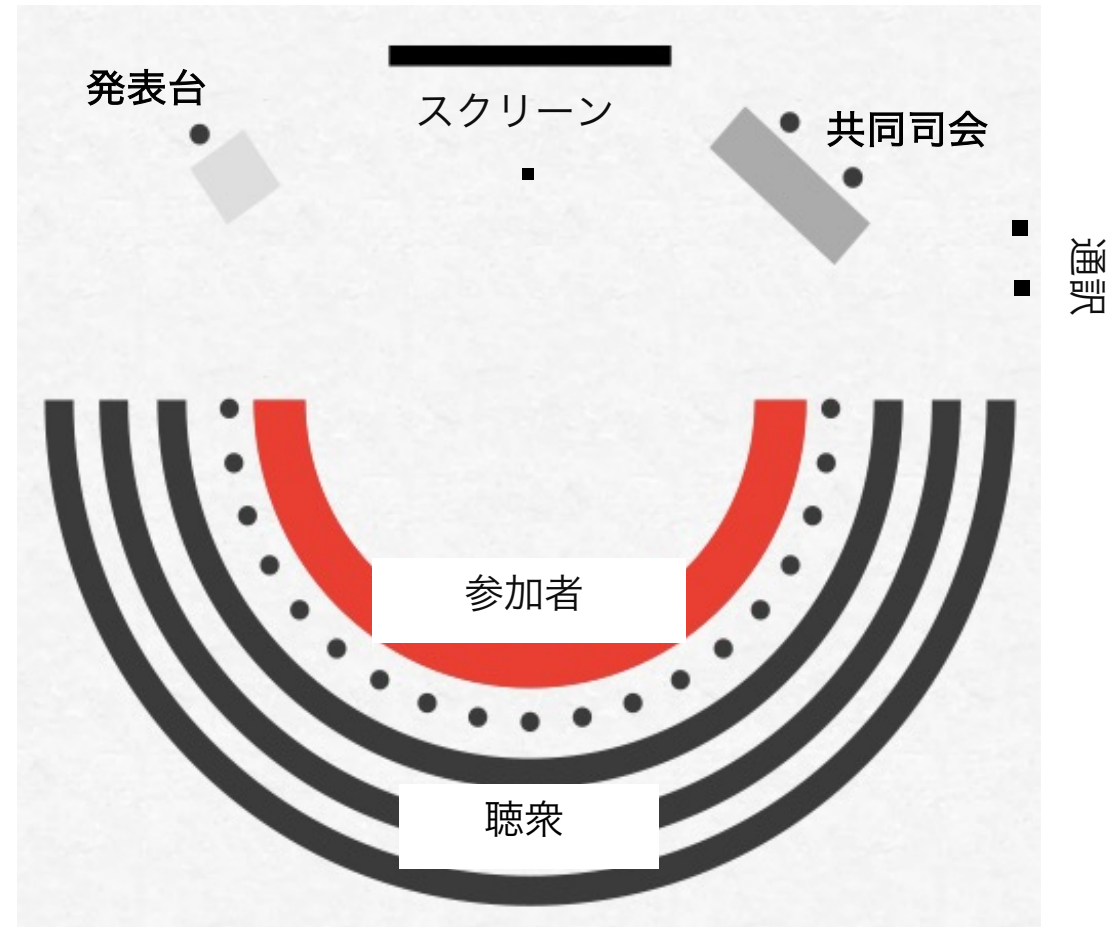
- 福島県の様々な市町村で合計12回のダイアログミーティングが2日間にわたって開催された。これには最初の会議も含まれる
- ICRPがASN、IRSN、NRPA、NEA-OECDからの財政支援と、福島医科大学、NPO放射線安全フォーラム、福島のエートスおよび伊達市からの運営支援を受けて開催
- 50から80名の招待参加者と地元および国際的なオブザーバーが参加
- 日本語/英語の同時通訳が提供された
- ベラルーシとノルウェーの専門家およびステークホルダーを招待することにより、チェルノブイリの経験が伝えられた
- メディア（プレス、テレビ、インターネット）公開
- 全てのダイアログが福島のエートスによってビデオ録画された
- ICRP委員長クレア・カズンズが2015年10月伊達市での第12回ダイアログミーティングに参加
- 2015年12月伊達市で福島ダイアログに関する国際ワークショップが開催された

最初のダイアログミーティングシリーズ

ダイアログミーティングの運営原則

- 招待された参加者にはベラルーシとノルウェーのステークホルダーを含む
- 地元および国際的なオブザーバー
- ICRPメンバーによる進行
- 共通言語 の使用
- ダイアログ技術の使用
 - 第1ステップ：参加者がそれぞれ5分間自分の意見を述べる。中断は許されない
 - 第2ステップ：相手の意見を聞いた後、各参加者が自分の意見を3分間述べる
 - 目的は、他者の意見を踏まえて、自分の考えを深めたり、変えたりする機会を全員に与えることである
 - 第3ステップ：主な教訓が報告者によって要約され、その後一般討論が行われる
- 全てのセッションはメディアに開放される

ダイアログミーティングの会場設定



ICRPダイアログ イニシアティブ ミーティング



2.伊達市 2012年2月



3.伊達市 2012年7月



4.伊達市 2012年7月



5.伊達市 2014年8月



6福島市 2013年7月



7.いわき市 2013年11月



8.南相馬市 2014年5月



9.伊達市 2014年8月

ICRPダイアログ イニシアティブ ミーティング



10.伊達市 2014年12月



11.福島市 2015年5月



12.伊達市 2015年10月



INTERNATIONAL WORKSHOP ON THE FUKUSHIMA DIALOGUE INITIATIVE
2015 DECEMBER 12-13, DATE CITY, FUKUSHIMA, JAPAN

SECOND ANNOUNCEMENT

International Workshop on the Fukushima Dialogue Initiative

"Rehabilitation of Living Conditions after the Nuclear Accident"

Date City Silk Hall, Fukushima Prefecture, 2015 December 12-13

Hosted by Date City

Organized by the International Commission on Radiological Protection

in cooperation with:

Date City • Ethos in Fukushima • French Institute of Radiation Protection and Nuclear Safety • French Nuclear Safety Authority • Fukushima Medical University • Fukushima Prefecture • Japan Health Physics Society • Japanese Cabinet Office (Support Team for Residents Affected by Nuclear Incidents) • Japanese Nuclear Regulation Authority • Ministry of the Environment of Japan • The Nippon Foundation • Norwegian Radiation Protection Authority • OECD Nuclear Energy Agency • Radiation Safety Forum Japan

Hosted by: 伊達市

Organised by: The International Commission on Radiological Protection

国際ワークショップ
伊達市 2015年12月

ICRPダイアログ全12回 (2011-2015)

回	日時	タイトル	開催地	主催
1	2011/11/26-27	福島原発事故による長期影響を受けた地域の生活回復のためのダイアログセミナー チェルノビル事故の教訓と ICRP 勧告	福島市	ICRP
2	2012/02/25-26	第2回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー	伊達市	ICRP
3	2012/07/07-08	食品についての対話	伊達市	ICRP
4	2012/11/10-11	子供と若者の教育についての対話	伊達市	ICRP
5	2013/3/2-3	帰還—かえるのか、とどまるのか—	伊達市	ICRP
6	2013/7/6-7	飯舘—問題の認識と対応—	福島市	ICRP
7	2013/11/30-12/1	いわきと浜通りにおける自助活動—被災地でともに歩む	いわき市	ICRP
8	2014/5/10-11	南相馬の現状と挑戦—南相馬でともに歩む	南相馬市	ICRP
9	2014/8/30-31	福島で子どもを育む	伊達市	ICRP
10	2014/12/6-7	福島における伝統と文化の価値	伊達市	ICRP
11	2015/5/30-31	測定し、生活を取り戻す	福島市	ICRP
12	2015/9/12-13	Experience we have gained together (これまでの歩み、そしてこれから)	伊達市	ICRP

末続地区への最初の訪問

- 第3回ICRPダイアログミーティングの機会に、安東量子はICRPメンバーを福島第一原発から南に27kmの海岸沿いに位置する小さなコミュニティ末続への訪問に招待した。
- 2011年3月11日の地震に続く津波が末続を襲い、27軒の家屋を破壊し、7人が死亡した。ほとんどの人々は3月13日に「自主的に」避難した
- 政府は3月15日から原発から20kmから30km圏に住む人々に屋内に留まるよう命じた。末続に対する避難指示は4月22日に解除された。
- 2011年秋、末続地区のボランティアのグループがコミュニティの全ての田んぼの土壌汚染と周辺線量率の測定キャンペーンを組織し、放射線状況の地図を作成した
- Twitter上での要請に応じて、自分の村の放射線状況についての勉強グループを立ち上げた安東量子が末続の人々に助言を申し出た
- こうした流れで、彼女はICRPメンバーに末続へ招待した
- この最初の訪問は、ダイアログミーティングと並行して、他の14回の訪問の開始となった

末続地区への最初の訪問 2012年7月

住民とのダイアログ



その後の末続地区への訪問



2. Nov. 2012



3. March 2013



4. July 2013



5. May 2014



6. Sept. 2014



7. December 2014



8. February 2015



9. April 2016



10. Sept. 2016



11. April 2017



12. Aug. 2017



13. April 2018

末続のco-expertiseプロセスの主なステップ

- 地域住民による測定：
 - ・ 2011年11月からの住居周辺と田んぼの空間線量率と土壌測定
 - ・ 2012年4月からの個人外部被ばく
 - ・ 2013年5月からの個人内部被ばく（全身測定キャンペーン）
 - ・ 2013年7月からの庭の食品製品の汚染
- いわき市からの放射性飛灰を末続の仮置き場で受け入れ
- 2013年11月いわき市での第7回ICRPダイアログミーティングに末続市民が参加
- 2014年4月の末続祭りの完全な再開
- 2014年12月からの末続の経験を行政と学生への普及活動
- 2015年1月からの末続プロジェクトの開始
- 2018年4月からの末続ビデオプロジェクト
- 2017年4月からの末続アトラスプロジェクト
- 2019年8月のICRPによる謝辞

末続プロジェクト

- コミュニティにDシャトル線量計を配布
- 半年ごとのホールボディ測定キャンペーン
- 集会所での週1回の食品測定日
- 4ヶ月ごとに地域情報紙「末続だより」を発行
- 測定を担当する非常勤相談員による支援
- 福島医科大学の専門家からの科学的および技術的支援
- 2015年1月から2017年3月までいわき市、2017年4月から2020年3月まで福島医科大学からの財政支援

ビデオプロジェクト

- タイトル: 信頼を取り戻す一末続地区の経験 原発事故の後で



<https://youtu.be/47sMGk87MuA>

アトラスプロジェクト

● 2022 年11月 末続アトラスを発行

The screenshot shows the Amazon.co.jp product page for the book 'End Atlas 2011-2020'. The page features a large book cover on the left with the title '末続アトラス 2011-2020' and the subtitle '原発から27km——狭間の地域が暮らしを取り戻す闘いの記録'. The author is listed as '福島のエートス'. To the right of the cover, the title is repeated in large text, followed by the subtitle and the release date '2022/9/28'. Below this, the authors are listed: '福島のエートス (著), ジャック・ロシャール (著), 安東量子 (著), & 1 その他'. The page also displays pricing information for two formats: 'Kindle版 (電子書籍)' for ¥99 and 'ペーパーバック' for ¥838. A promotional banner at the bottom of the product section offers a '10%ポイントプレゼント' (10% point gift) on the first purchase of the book. The top of the page shows the Amazon.co.jp header with navigation links and a search bar.

amazon.co.jp こんにちは お届け先を選択 本

すべて Amazonポイント: 残高を確認 カスタマーサービス ランキング Amazon Basics Prime Video プライム

本 詳細検索 ジャンル一覧 新刊・予約 Amazonランキング コミック・ラノベ・BL 雑誌 文庫・新書 洋書 Prime Reading

試し読み

末続アトラス 2011-2020
原発から27km——狭間の地域が暮らしを取り戻す闘いの記録
福島のエートス

末続アトラス 2011-2020
2点すべてのイメージを見る

末続アトラス2011-2020: 原発から27km——狭間の地域が暮らしを取り戻す闘いの記録 ペーパーバック - 2022/9/28
福島のエートス (著), ジャック・ロシャール (著), 安東量子 (著), & 1 その他

すべての形式と版を表示

Kindle版 (電子書籍)
¥99
獲得ポイント: 1pt
今すぐお読みいただけます: 無料アプリ

ペーパーバック
¥838
獲得ポイント: 8pt
¥838 より 1 新品

はじめての本の購入で
10%ポイントプレゼント
エントリーはこちら

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0BGSV4ZQY>

14回めの末続訪問 – 2019年8月



ICRPからの顕彰

末続の経験から得られたこと(1)

- 原発事故後に状況を再び落ちさせるためのイニシアティブは、専門家と専門ボランティアの支援を受けて直接影響を受けた人びと自身で行えることを示した
- チェルノブイリの過去の経験が重要な役割を果たし、モデルとして機能した
- 末続の住民による実用的な放射線防護文化獲得プロセスは、co-expertiseプロセスを経験したベラルーシの村々と非常に似ていた。
- 技術の進化、特にソーシャルメディアの役割とDシャトル線量計のおかげで、末続のco-expertiseプロセスはベラルーシよりも迅速だった
- プロセスの展開だけでなく、その持続可能性を確保するためのメカニズムも迅速に用意された
- 地元リーダーおよびボランティア専門家の長期的な関与が、このプロセスの成功の鍵となった

末続の経験から得られたこと(2)

- 福島の外からの日本人および外国人の個人および団体からの絶え間ない連帯も、住民の長期的な活動を維持する上で重要な要素だった
- 参加者は、事故とその後の影響、特に信頼と自信の再建に関する豊かなナラティブの発展に貢献した
- 8年間の証言と振り返りを通じて、末続の住民は特にその人間的側面に関して、事故後の状況の複雑さをよりよく理解するのに大きく貢献し、'co-expertise プロセス'の発展に大きく貢献した。
- この経験の成功を国内外の専門家が認識し、最近のICRPの勧告に明示的に取り入れられた。
- 住民にとっても成功体験となり、自信を取り戻した。
- 結論として、末続の体験は、影響を受けた人々が回復プロセスに関与し、自分たちの尊厳を回復するための効果を確認した

末続地区の活動のコミュニティリーダーたち



高木宏
末続区長



門馬麻衣子
放射線相談員



安東量子
福島のエートス



遠藤真也
末続ふるさとを守る会



宮崎真医師
福島県立医科大学

ダイアログミーティング 第2シリーズ

福島ダイアログ：ICRPとの協力によるダイアログの継続

- ダイアログイニシアティブのコアグループの参加者からのさらなるダイアログミーティングの開催要求
- 日本財団による財政支援
- 福島医科大学と「福島のエートス」による運営支援
- ICRPによるダイアログミーティングのファシリテーション
- 2016年3月から2018年2月まで合計8回のミーティング
- クレア・カズン ICRP委員長が2018年の双葉・大熊ダイアログミーティングに参加

ダイアログミーティング 第2シリーズ



14. 都路, Feb. 2016



15. 飯舘, July 2016



16. 川内, Oct 2016



17. 双葉・大熊, March 2017



18. 伊達市, July 2017



19. 山木屋, Nov. 2017



20. 南相馬, Feb. 2018

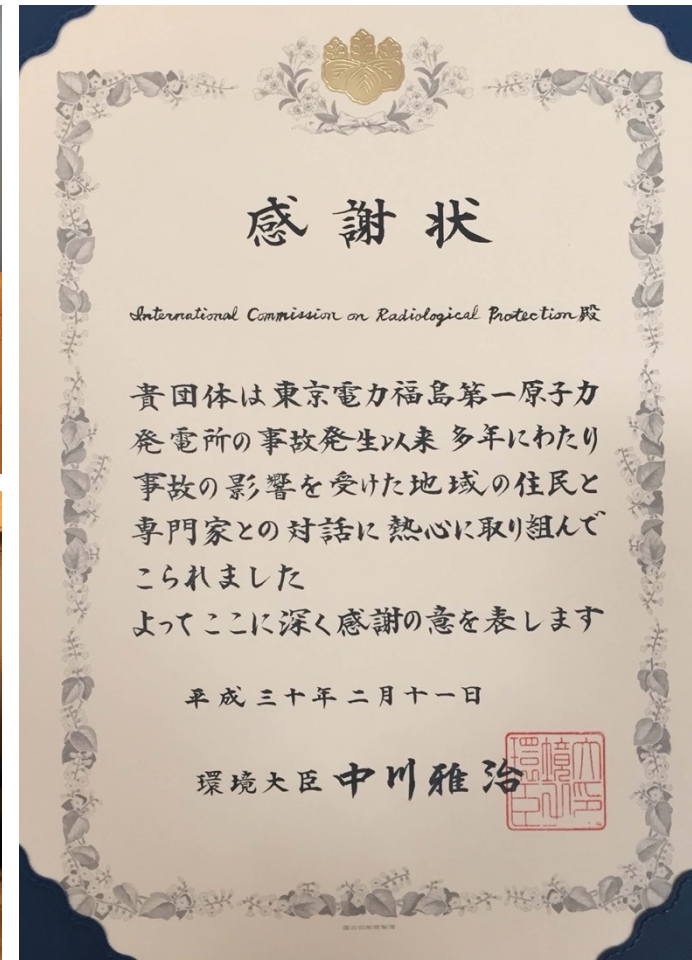
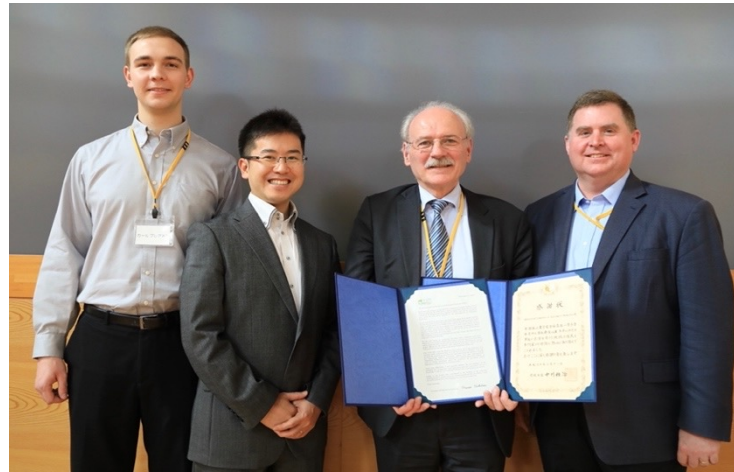


21. いわき, Dec. 2018

福島ダイアログ I 8回開催（2016年～2018年）

13	2016/03/12-13	福島的生活条件回復についてのダイアログ 「都路の現在」	田村市	
14	2016/7/9-10	飯舘村フォローアップダイアログセミナー “飯舘村の今の経験をわかちあう” 国際放射線防護委員会(ICRP)の協力による対話の 継続	飯舘村	
15	2016/10/1-2	双葉地方におけるダイアログセミナー 国際放射線防護委員会(ICRP)の協力による対話の 継続	川内村	
16	2017/3/11-12	双葉・大熊の住民の方たちとの現状を共有するダ イアログ ～国際放射線防護委員会（ICRP）の協力による対 話の継続～	檜葉町	双葉大熊ダイアログ 実行委員会
17	2017/7/8-9	私たちの未来のために、私たちに必要なこと ～国際放射線防護委員会（ICRP）の協力による対 話の継続～	伊達市	伊達ダイアログセミ ナー実行委員会
18	2017/11/25-26	山木屋の住民の方たちと現状を共有するダイアロ グ ～国際放射線防護委員会(ICRP)の協力による対話 の継続～	川俣町	山木屋ダイアログ実 行委員会
19	2018/2/10-11	福島ダイアログ:南相馬、小高のいま、未来を共有 するための対話集会 ～国際放射線防護委員会(ICRP)の協力による対話 の継続～	南相馬市	南相馬ダイアログ実 行委員会
20	2018/12/15-16	福島ダイアログ: 福島第一原発事故のあとで: 記憶 を残し、経験を共有し、あたらしい未来へ向かう ために ～国際放射線防護委員会（ICRP）の協力による対 話の継続～	いわき市	ICRP・福島ダイア ログ実行委員会・ JAEA

環境省および福島県庁からICRPへの感謝状 - 2018年2月 -



福島ダイアログの未来に関する会議



ダイアログミーティング 第3シリーズ

- 2018年12月にいわきで開催された第20回ダイアログミーティングの機会に、第2シリーズのダイアログミーティングを組織した地元の参加者グループが将来について議論するために集まった
- この会議中に、彼らは非営利組織（NPO）を作成することを決定した：
 - ダイアログミーティングの継続
 - ダイアログミーティングの資料の管理と周知
- 国内外の組織とのパートナーシップの確立
- このNPOは2019年6月26日に正式に設立された。
- この日付は、NPO福島ダイアログに完全に運営が委ねられた第3シリーズのダイアログミーティングの開始を示す

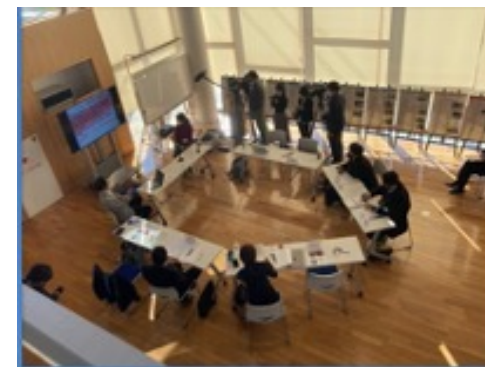
ダイアログミーティング 第3シリーズ



いわき市, August 2019



福島市 Dec. 2019



オンライン (楢葉町), Nov. 2021



楢葉町, Nov. 2022



双葉町, Oct. 2023

ダイアログミーティング 第3シリーズ

福島ダイアログ II (2019年以降)

21	2019/8/3-4	福島ダイアログ：福島の復興はどこまで進んだのかー農業と漁業を中心としてー ～国際放射線防護委員会(ICRP)の協力による対話の継続～	いわき市	ICRP・JAEA・NPO 法人福島ダイアログ
22	2019/12/14-15	福島ダイアログ：9年間の軌跡について語る ～国際放射線防護委員会 (ICRP) の協力による対話の継続～	福島市	ICRP・JAEA・NPO 法人福島ダイアログ
23	2021/11/28	第23回福島ダイアログ 「処理水をめぐる課題を福島で考える、世界と考える」	楢葉町	NPO法人福島ダイアログ
24	2022/11/5-6	第24回福島ダイアログ 「次世代と考える福島のこれから」	楢葉町	NPO法人福島ダイアログ
25	2023/10/14-15	第25回福島ダイアログ「原子力災害後に共に生きる」	双葉町	NPO法人福島ダイアログ

NPOの最近の展開

- 2023年に、NPOの理事会は、影響を受けた地元コミュニティの関与を促進し、その活動の日本国内および海外での普及を増やすというふたつの目的を立てて、運営をさらに発展させる決定をした
- これらの目標を達成するために、以下の決議が採択された：
 - 個人および法人の会員資格の変更
 - 発足時メンバー以外への理事の拡大
 - 日本人および外国人メンバーを含む助言委員会の設立
 - NPOウェブサイトの再設計（進行中）
- 学術雑誌ヘダイアログミーティングに関する論文を定期的に投稿、公開すること

福島ダイアログの主な教訓

25回の福島ダイアログからは次のようなことが理解された:

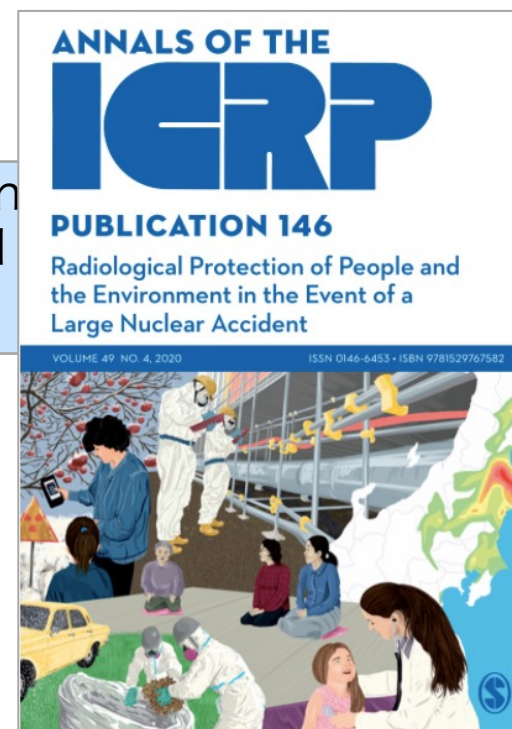
影響を受けた地域において、住民が直面する選択は極めて困難であり、多くの場合、深刻な個人的および社会的影響を伴う

- 避難と除染の社会的および経済的影響
避難および除染活動は、地域社会に対して長期的な社会的および経済的影響を及ぼす可能性がある
- 影響を受けた住民、製品、および地域の差別
事故後の回復過程において、影響を受けた人々や製品、さらには地域全体が直面する差別は、社会的連帯と回復の努力に重要な障壁となる可能性がある
- 放射線レベルと個人の被ばくの測定が回復プロセスにおいて人々を巻き込み、コミュニケーションすることの役割
放射線レベルの測定と個人被ばくの評価は、科学的な情報を提供し、影響を受けたコミュニティ内での意思決定プロセスにおいて、住民の関与と信頼を高める上で中心的な役割を果たす。
- 回復プロセスの開発における倫理的価値の尊重の重要性
回復プロセスにおける意思決定は、透明性、正義、平等などの倫理的価値を尊重することが重要である。これは、プロセスへの信頼を構築し、より公正で持続可能な解決策に貢献する

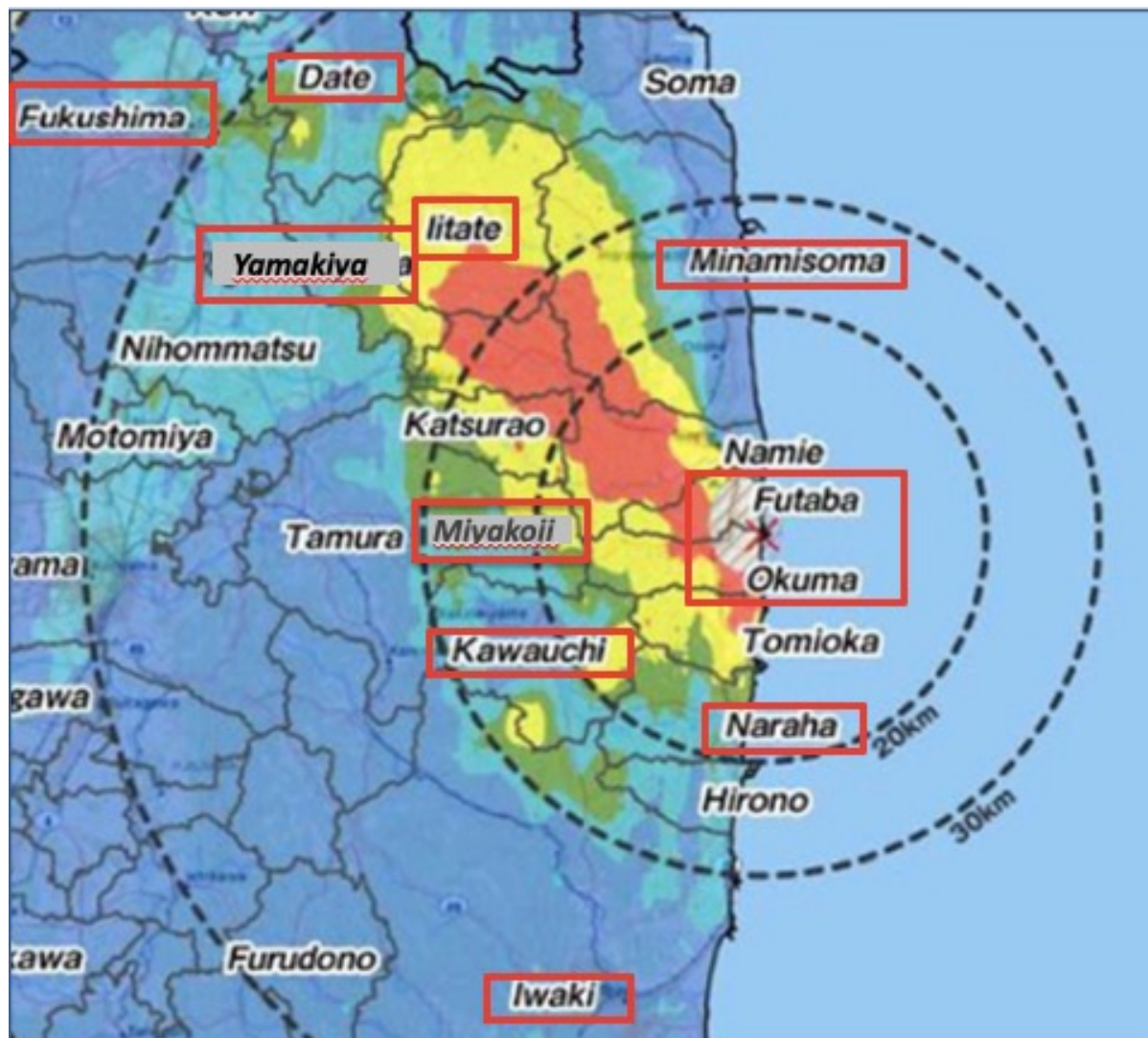
結論

- 福島ダイアログと末続体験は、特に事故の人的側面に関する豊富な証言を生み出し、これは将来的に原子力事故が発生した場合の準備の改善と、影響を受けた人々をサポートするために、福島の人々からの貴重な財産となる
- ダイアログミーティングと末続のco-expertiseプロセスの教訓は、2020年に公開された最新のICRP勧告に取り入れられた：大規模原子力事故における人と環境の放射線防護 — ICRP Publication 109 と 111 の改訂 — ICRP出版物146

Radiological protection of people and the environment in the event of a large nuclear accident: update of ICRP Publications 109 and ICRP Publication 146. Ann. ICRP 49(4)



これまでに開催されたダイアログミーティングの場所



ICRP

www.icrp.org